

The way forward

トップインタビュー

付加価値の高い新製品などにより、
研究開発型企業らしい成長を。

昨年までの原油・ナフサ安のトレンドは現在上昇に転じ、これによって当社製品への値下げ要求が緩和に向かいつつあります。このような市場環境の変化もあり、当社の第60期上期の業績は増収増益となりました。今期の好業績を牽引したのは、とくに国内の各事業部です。なかでも金属加工油、合成潤滑油の両事業部は、新商品の投入などにより、販売数量の伸び以上に利益を伸ばしました。付加価値を追求する研究開発型企業らしい結果が出せたことは嬉しい限りです。機能材事業部、ホットメルト事業部も日系大手と新たなつながりを築き、売上を伸ばしています。しかしその一方で海外の子会社などは伸びきれず、増収を達成するも利益は微減となりました。国ごとにそれぞれ異なる要因が挙げられますが、総じていえば今後は市場規模の大きな中国とアメリカにおいて、日系以外の自動車メーカーにいかにか食い込んでいくかが主な課題と言えます。

このほか、前年に立ち上がったばかりのデバイス材料事業部については、順調な滑り出しを見せています。実用化はこれからとなる有機薄膜太陽電池(OPV)についても興味を示してくださるお客様が多く、2020年に向けた開発ニーズの高まりに乗じてもう一つの柱に成長させていきたいと考えています。下期、そして来期に向けてはさらにMorescoらしい独自性のある提案に注力し、いまの良い流れをより強い勢いに変えていくことができればと思います。

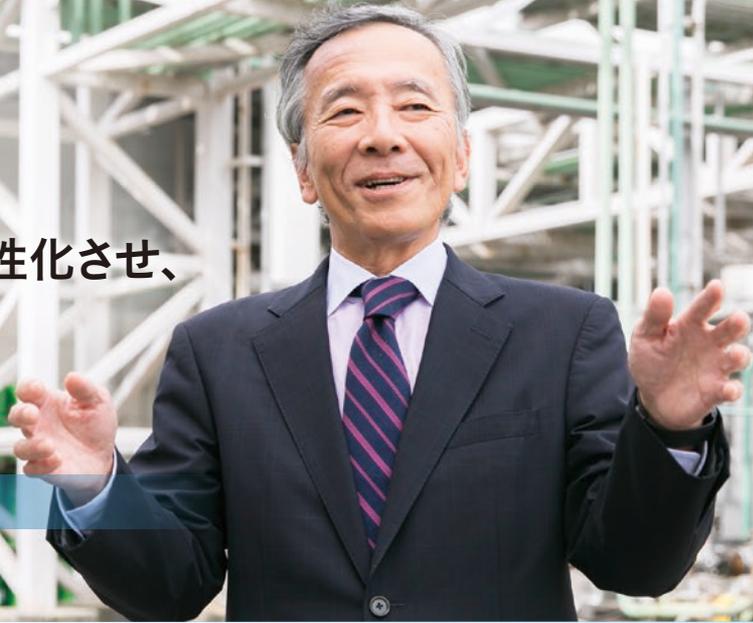
株式会社 Moresco

代表取締役社長 赤田 民生

機能材事業部の展望

**2年後のインド工場進出で
現地ニーズを獲得。
各国の技術者の交流を活性化させ、
強みを発揮したい。**

取締役 専務執行役員 竹内 隆



赤穂工場で生産している高機能な特殊潤滑油剤はMORESCOが創業以来手掛けてきた製品分野であり、現在も当社の売上の約45%を占める軸軸です。私は機能材事業部長として、この事業領域のさらなる拡大に向けた取り組みを牽引しています。今回はこの機能材事業の今後の展望について、皆様にご紹介いたします。

機能材事業のメインクライアントは日本の自動車業界のメーカー様ですが、その大部分が海外生産を強化しています。必然的に私たちのビジネスを伸ばすためには、積極的に海外展開を進める必要があります。そこで当社は1995年にタイに最初の拠点を築いて以来、中国の無錫・上海、アメリカ、インドネシアへと次々に展開。現在は売上の約6割を海外が占めるまでになりました。さらに2年後のインドでの工場進出を目指し、いま準備を進めているところです。インドは現在、自動車の生産・販売台数が世界第5位ですが、所得増加にともなってさらに伸びると予測されています。中国、アメリカに次ぐと目される将来の巨大市場にいま確かな拠点を築き上げることで、今後の需要獲得につなげていきます。

また、MORESCO製品が国内および海外でさらに影響力を持つには、環境をキーワードにより付加価値の高い製品を提供する必要があります。例えば環境汚染が進んだ中国では、すでに日本より厳しい環境規制の基準が設けられています。このよ

うな状況が世界規模で進む今後は、油剤の使用量を減らせる、あるいはリサイクルができる、金型の寿命を延ばせる、使用電力量を減らせるなどの環境負荷軽減への取り組みが当社の強みとなるでしょう。我々は現在この点に注力して開発を進めており、その製品力によって効果的にシェアを拡大していきたいと考えています。それからもう一点、グローバル化により世界中のどこでも最良の製品を供給しなければならない現在は、現地での対応力が大きな意味を持ちます。いかにお客さまのニーズに素早くお応えできるか。何か問題が発生した際、どれだけ丁寧に対応できるか。そうしたところが評価の分かれ目となるため、当社も現地スタッフの育成に積極的に取り組み、代理店教育にも注力しています。

最後になりますが、今後さらに機能材事業を発展させていくためには、生産面において赤穂工場が世界のマザー工場として機能していくことも重要なポイントの一つです。日本で蓄積された生産ノウハウはMORESCOならではの強み。生産技術者同士の交流を密に行うことで改善の伝統を海外にも根付かせていきます。また最近では、海外工場側で製造プロセスの革新が実現され、それを日本側で取り入れる動きも出てきました。このような相互のやりとりを活性化させ、各地の現場力を高めてより強いモノづくりを実現できればと考えています。





弛まず改善を繰り返して30周年。 世界をリードする赤穂工場の足跡、そして未

ホットメルト製品に加え、
特殊潤滑油剤全般の生産を担う。

赤穂工場は1986年に操業を開始しました。当初はホットメルト製品だけを担っており、生産能力も高くありませんでしたが、1991年に第二生産棟が完成して新たに機能材の生産がスタート。2001年には増築した第三生産棟に西宮工場の生産設備を移行させ、その後も度重なる事業拡大で生産品目がさらに充実。MORESCO全体を支える重要生産拠点へと成長を遂げました。



操業開始当時の赤穂工場(1986年)

大規模な生産方式の革新や
日々の改善活動でより強い工場へ。

近年の大きな革新は、2008年にそれまでのホットメルト生産方式を根底から見直し、より効率的に生産できる「エクセルコート化」を実現したことです。これにより生産量は倍増。また新規設備導入により、フルオートメーション化を実現しました。このような設備投資以外にも、より強い生産体制を作り上げることを目指し、小集団のQC活動の活性化など弛まぬ努力を続けています。



現在の生産品目



難燃性作動液

アルミ自動車部品を生産する油圧装置に使用され、工場設備を火災から守る。



ダイカスト油剤

アルミ自動車部品などを鋳造する設備で使用され、生産性向上と環境改善に貢献。



切削油剤

旋盤や研削盤といった、金属等の材料を削り取る工作機械で使用される製品。



高温用潤滑油

自動車電装品の高温となる軸受けグリースの基油など過酷な環境下で活躍。



高真空ポンプ油

半導体やシリコンウエハ、蒸着などの真空装置に使用され、生産性向上に貢献。

近年の主な取り組み例

自動開袋機の導入

2016年にホットメルト製造工程において、材料の仕込み工程を自動化。1バッチ3トンもある材料をこれまで人手で処理していた労力を軽減しました。



バーコードによる在庫管理

2016年より一部のラインで製品バーコードをホストコンピュータと連動させ、在庫管理を効率化。将来的にはトレーサビリティの強化につながります。





来。

赤穂工場長 鶴川 賢一

今後は…

世界のマザー工場として 各地の生産力向上を牽引する役割も。

赤穂工場は世界の工場の中軸と位置づけられており、ここで培った生産技術のノウハウを積極的に海外の工場に水平展開し、世界規模で生産力や品質を高めていこうとしています。今後は工場全体で世界をリードしていく意識を持ち、海外から技術者を招いて教育を行うなどの取り組みにも注力していきたいと思えます。



熱間鍛造潤滑剤

金属材料に圧縮加工を加え、目的の形状に仕上げる加工時に欠かせない潤滑油。



ホットメルト接着剤

環境にやさしい接着剤として紙おむつや粘着ラベル、建材などに活用されている。

新しい倉庫を建設中

完成した製品の保管場所が不足し、外部倉庫も活用していましたが、現在工場敷地内に新倉庫を建設中。「横持ちのロス」の解消を目指します。



MORESCO 年間トピックス

3月 研究開発を社長直轄3プロジェクト体制へ

トップの意思・判断が直接開発者に伝わり、スピーディに動けるよう研究開発本部を改組。コート剤プロジェクト、粉体離型剤プロジェクト、バッテリープロジェクトの3チーム体制で再始動しています。



4月 (株)マツケンが名古屋のものづくり展に出展

4月に開催された「名古屋ものづくりワールド2017」の「航空・宇宙機器 開発展」に(株)マツケンが出展。「膜で廃水処理します!」を掲げて独自技術を紹介し、多くの方と接点を持つことができました。



4月・7月 デバイス材料事業部が各種展示会に出展

4月に「第27回ファインテックジャパン 液晶・有機EL・センサ技術展」(東京)に、7月に「イノベーションを支える素材展 in 大阪2017」(大阪)に、デバイス材料事業部から展示・出展しました。



「イノベーションを支える素材展」で行われた赤田社長の特別講演。

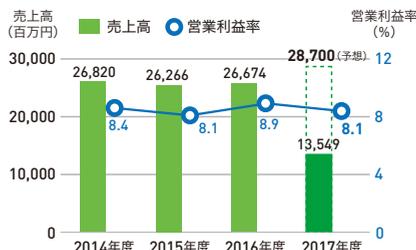
8月 ハッピー・オーガスト制度をスタート

8月1日から31日までの期間は原則会議ゼロ月間とし、取締役会、経営会議、各種登録会議ほか一切の会議の開催を取りやめることに(緊急の会議を除く)。ワークライフバランスの充実を目指します。



当第2四半期連結累計期間の売上高は13,549百万円(前年同期比3.4%増)となり、経常利益は1,175百万円(前年同期比9.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は681百万円(前年同期比7.4%増)となりました。

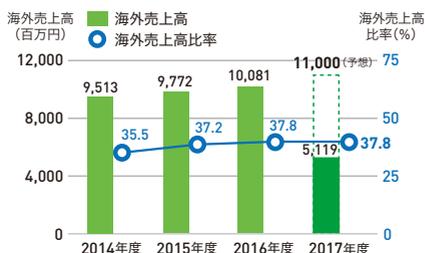
売上高と営業利益率



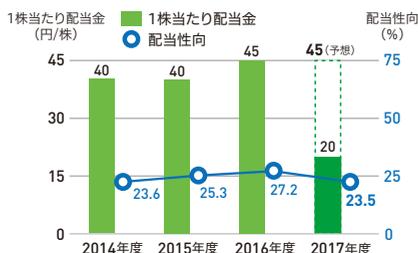
経常利益と経常利益率



海外売上高と海外売上高比率



1株当たり配当金と配当性向



自己資本と自己資本純利益率(ROE)

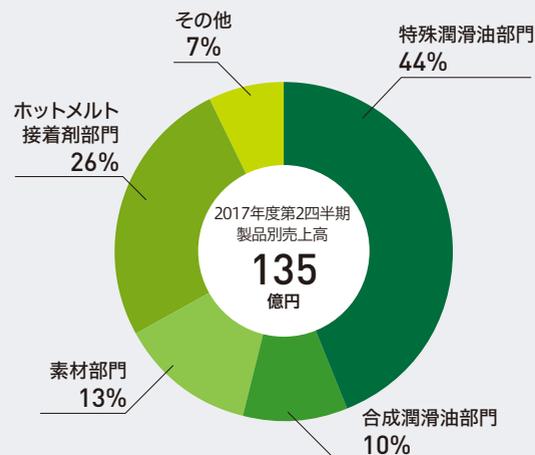


セグメント情報



新規顧客の獲得や高価格品への移行などにより、ビジネスを拡大。

自動車関連において国内生産台数が好調のため、主力のダイカスト用油剤、切削油剤および熱間鍛造潤滑剤が新規顧客獲得などにより売上を伸ばしました。また高温用合成潤滑油は自動車のペアリング用グリースの輸出が好調、ハードディスク表面潤滑剤は高価格品への移行が進み、共に売上増に貢献しました。



特殊潤滑油

主力製品が売上を伸ばした一方、連結子会社の自動車用ケミカル製品の売上が減少し、前年同期並みの実績に。

合成潤滑油

高温用合成潤滑油の輸出が前年後半以降好調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

素材

流動パラフィンの販売数量が全体的に堅調に推移したことなどにより、売上高は前年同期を上回りました。

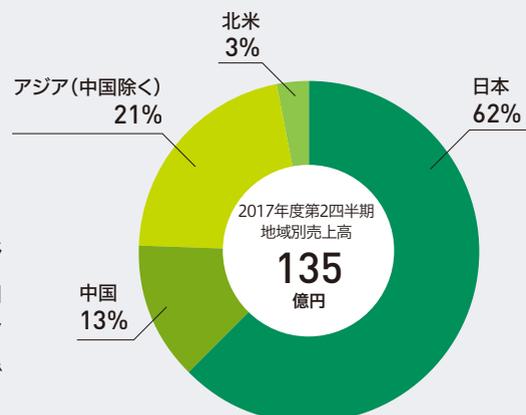
ホットメルト接着剤

主力の衛生材用途での売上が前年同期並みで推移した一方、粘着、自動車向け等の売上は前年同期以上に。



国内に加え、自動車生産が旺盛なアジア各国が好調に推移。

日本では、自動車生産台数が前年同期比プラスで好調に推移する中で、各事業分野がそれぞれに売上を伸ばしました。中国では作動油、ダイカスト用油剤および切削油剤等特殊潤滑油の売上の伸びなどにより、前年同期を上回る売上高を達成。東南アジアにおいても同様に、特殊潤滑油の売上が前年同期を上回りました。一方で北米では主力の特殊潤滑油の売上は前年同期並みで推移しましたが、スルホネートの売上が目標に届かず、全体として前年同期を下回る結果となりました。



会社概要・株主情報 (平成28年8月31日現在)

■会社概要

商号 株式会社MORESCO
設立 1958年10月27日
資本金 2,090,578,200円
従業員数 306名

■本社および事業所

本社・研究センター 神戸市中央区港島南町
5丁目5-3
電話078-303-9010(代表)
支店 東京支店/大阪支店
営業所 名古屋営業所
工場 千葉工場/赤穂工場

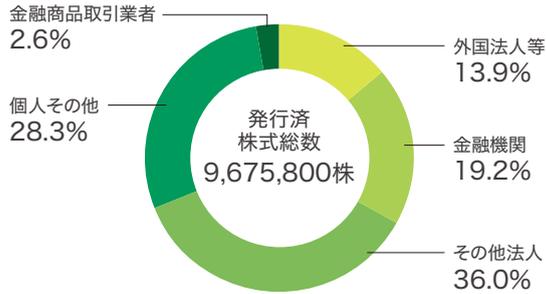
■役員構成

代表取締役社長 執行役員 赤田 民生
取締役 専務執行役員 竹内 隆
取締役 専務執行役員 両角 元寿
取締役 常務執行役員 宮川 弘和
取締役 上席執行役員 瀬脇 信寛
取締役 浅野 応孝
取締役 リ・ジュ・ジュティ・リン
取締役 出口 侑宏
常勤監査役 作田 真一
監査役 冨野 武
監査役 小沢 史比古
監査役 長谷川 克博

■株式の状況

発行可能株式総数……20,000,000株
発行済株式総数……9,675,800株
株主数……7,521名

■株式所有者別分布状況



■大株主

株主名	持株数	株主比率
松村石油(株)	1,067,000	11.0%
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE-HCR00	671,700	6.9%
コスモ石油ルブリカンツ(株)	503,000	5.2%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	473,700	4.9%
日本曹達(株)	365,000	3.8%
MORESCO従業員持株会	340,720	3.5%
三菱商事(株)	327,000	3.4%
双日(株)	327,000	3.4%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	300,200	3.1%
(株)みずほ銀行	250,000	2.6%
(株)三菱東京UFJ銀行	250,000	2.6%

持株比率は自己株式(610株)を控除して計算しております。

株主メモ

■事業年度

3月1日～翌年2月末日

■期末配当金受領株主確定日

2月末日

■中間配当金受領株主確定日

(中間配当を行う場合)

8月31日

■定時株主総会

毎年5月

■株主名簿管理人および

特別口座の口座管理機関

三菱UFJ信託銀行株式会社

■同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社

大阪証券代行部

〒541-8502 大阪市中央区伏見町

三丁目6番3号

TEL:0120-094-777(通話料無料)

■上場証券取引所

東京証券取引所

公告の方法

電子公告により行う

公告記載URL

<http://www.moresco.co.jp/>

(ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他やむを得ない事由が生じたときは日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

◎株主様の住所変更、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。

株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

◎特別口座に登録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合わせください。なお三菱UFJ信託銀行全国本支店でもお取り扱いいたします。

◎未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行全国本支店でお支払いいたします。